

# 上野幌育種場だより



御來場いたゞけなかつた

会員の皆様のために

## 三 浦 梧 楼

当減収を予想しております。

### 二 誌友の皆様を圃場へ御案内

今夏は同友会の皆様も随分大勢お出でになつて頂きましたが、種々な御都合からまだ当育種場へお出で願えない方も相当あると思われまので、誌上から圃場を御案内申し上げ、今年の農場便りしたいと思います。

まず農場の概要について、

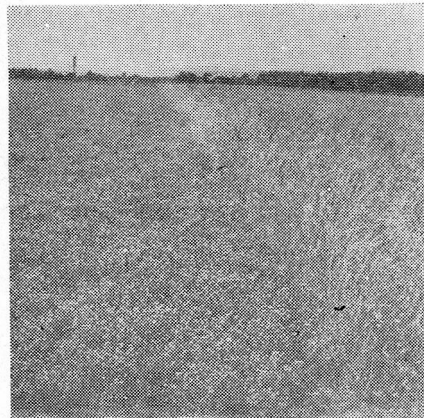
○耕地は約三〇町歩、その使用区分は試験研究に六町歩、原種生産に一〇町歩、自給飼料圃五町歩、果樹母樹園など二町歩、その他となつており、

○家畜は乳牛一三頭の他に耕馬、鶏などの規模のもとに、飼料作物、園芸作物を対象として品種改良（導入作物の適応性調査を含み）栽培利用法の調査、原種、原原種の生産を主として行つてゐるのが上野幌育種場であります。さて以上の概要を判つて頂いたものとして、次ぎは圃場へ御案内申し上げます。

#### ◎飼料作物種、調査圃場

(a) 牧草類の展示圃場並びに種、品種保存圃

今年からは牧草類の保存圃も整理し、主として北方型の牧草のみを栽培し、北海道ではあまり特性の現われないう南方型ものは、千葉農場で保存という建前でその数も相当減少しました。が、それでもかれこれ一〇〇余の牧草類が保存展示されており、よくまあこんなに牧草があるものだと思はれます。同一条件下で栽培し、その時期の生育をみると、確かに牧草は



アルサイククロバー（四倍体）とライ麦改良種の原種圃

多数種類の組合せ栽培が必要だと痛感させられます。早春オーチャードグラスに先立つて利用期に達するインタメデオトホイーグラスまた早春から晩秋まで常緑の生育を続けるトルオートグラス、K三一フェスク、頻繁な刈取りにもよく耐えて短期間によく再生するライグラス類、短期間に旺盛な生育をするクリムソニックローなど実にその特性は変化に富んでおります。また品種間でも、在来種より遙かに巨大な生育をする四倍体アルサイクローバー、大葉で緑色の濃いスイートクローバー、エバグリーン種、多葉巨大な改良オーチャードなど品種による収量差の大きなことを示してくれるものも相当数あり牧草栽培も適種の選定から更に一歩前進して適品種選定の必要なことを教えてくれるのが保存圃であります。そしてここに保存されているものが、それぞれの特性によつてより優良な新品種の育成の材料として利用されるのを待つてゐるわけです。

(b) 牧草類の四倍体育成  
すでに販売しているものにはアルサイク

ラテノ、ペレニアルライ、オーチャード混播草地の放牧風景

### 一 今年の北海道は異状豊作

四十年来といわれた昨年の冷害凶作を送つて、今年こそはと大いに張り切つて鎌を下したのがつい先の頃と思つておりましたが、もうコーンサイレーシの切り込みも終り、スタンングラスや大豆、家畜根菜の収穫を残すのみとなり、早い秋作の収穫跡地はトラクターが秋耕しに懸命に走り続けて

ラテノ、ペレニアルライ、オーチャード混播草地で

おります。今年の北海道は豊作の声も出ておりますが、それも無条件な豊作ではなく異状豊作と呼ばれ変態なのだそうです。豊作凶作は、主として水稻の作柄によつて表現されることは北海道も府県と同様で、つまり異状豊作とは積算温度が、昨年の冷害年と同様に低いにかかわらず、品種選択や、耕種肥培技術がよるしきを得たために、よく低温を克服して豊作に導いたことを意味しているようであります。

従つて米作地帯は、異状型でもとにかく豊饒の秋を歓喜しておりますが、他方、水稻の栽培に限界外の寒冷な畑作地帯の特に穀実生産では、昨年に劣らない冷害凶作にあえいでいるようではありますが、その点牧草を主体とした酪農家は安泰であります。ともかく、今年の北海道は水田農家と酪農家のみが恵まれた矢張り異状豊作の年でした。

上野幌育種場においては幸いにして平年作を得ておりますが、ただ絶対高温作物であるスタンングラスの如きは、生育が例年に比してかなり見劣りがし、種子生育も相

クロバリーがあります、更にラデノ、赤クロバリー、バーズフット、チモシー、オーチャード、ライ、フェスク類などについて四倍体の育成を行っております。その中でも煙草の「光」大の大葉となるラデノクロバリーや、四葉五葉に固定しつつある赤クロバリーは、参観者の大きな関心を呼んでおります。赤クロバリーの四葉系統などは草生は在来種に比してそれほど

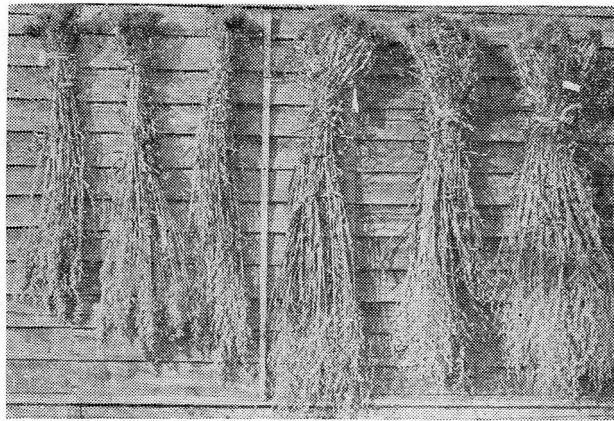
優れてはいないようですが、葉部が多いといふことはなんといつても飼料価値の点で優れており、反当で同じ一、〇〇〇貫の草を採つても葉の多い一、〇〇〇貫では質的に非常に優れたもので、牧草を稲に例えれば葉の部分は稲に相当し、茎は葉すなわち稈物と同様で、飼料としては葉が欲しいのですと、説明を申し上げておりますが、

「なるほどそれで四葉のクロバリーは幸福をもたらすのか」と、四葉の幸福を酪農と結びつけて帰られる方もありました。また牧草類の倍數体については、更に急速に仕事を進めたいとかねてより計画しておりましたが、偶々今春、当育種場の中野場長が生産性向上会議種苗研究コースの一員として渡米が実現し、育種の面ではとくにこのことを重点の一つに研究してくることとなり、

帰国後の成果を私ども場員も大いに期待しているわけですが。

### (c) 青刈燕麦の新品種育成

青刈燕麦の栽培普及を予想してこの仕事に着手して以来、すでに一〇年になろうとしております。現在栽培されている青刈燕麦品種は、北海道における実取り燕麦の優良品種である前進、ビクトリーが圧倒的



青刈燕麦新優良系統

左から前進、ビクトリー、スワロフ、新系統三種(何れも10株)

ですが、これも青刈りとして検討してみると決して最善の品種ではありません。矢張り実取りとしての優良品種であり、青刈りとして更に能力の高いものを育成する必要があります。在来品種から選んだ晩生多収耐寒性の雪印一〇一号は、各地で好評を博しておりますが、これは採種量が伴わないために出血生産を余儀なくされ生産が期待できなかつたの

ですが、昨年来約一〇〇の優良育成系統の生産力予備検定を行った結果、青刈、採種ともに能力の高い数系統を選抜しましたので、これらは数年内に多量に生産できる見通しを得ております。その二、三の特性を拾い上げてみますと、ビクトリーに比し約一週間ほど晩生ですが、青刈りで六〜八割多収な長稈種、またスーダングラスのような大葉の系統、再生能力旺盛で水稲の早

期栽培跡地用の数度刈りに適すると思われるものなどなかなか楽しみが多いものがあります。

### (d) 大葉多葉性ひまわりの育成

青刈用として短期間に多収を得られ、またサイレーシジョンデントコーンの欠株補播用として、需要が年々増大している「ひまわり」も、飼料価値を高めるためには葉の多いことが必要であり

ますが、農研(千葉畜産試験場)で育成された多葉性ひまわりに、更に北海道の地方系統の大葉を交配育成中で、今年で系統選抜を終え、明年からは集団選抜に入り、両三年にて大量生産の段階に到着し得るものと思われ



大葉多葉性ひまわりの原種圃(電柱に追付きそう)

です。この選抜系統の特性は、葉はシブウチフ以上の大きさとなり四〇〜五〇枚の多葉でしかも晩生伸長型で、デントコーンより一カ月くらい遅く追いつきして

### (e) 耐病性品種の育成試験

飼料作物は生産費の点からも、植物体自体を家畜に給与することからも薬剤散布は他作物のように行えないのが実態で、飼料の普及に伴って急増を見せる病害にはまず耐病性品種育成によつて對抗することが必要であります。そこで上野幌育種場におい

ては、すでにルタバガの白腐病抵抗性品種を選定し、スムースラウンド、ウィルヘルムスパーガーなどを発売しておりますが、このように既存品種や導入品種では解決できない面もありますので、抵抗性品種の育成も行っております。そのうち赤クロバリーには銹病、炭疽病、菌核病(冬枯病)に対して抵抗性ある品種の育成に成功、目下増殖の段階にあります、在来種との比較

圃場では一方は菌核病のため一年で残存株が三分の一くらいになるのに対し、他方は全く枯死株が見られませんが、また開花盛期を過ぎても緑色滴るような抵抗性品種を見て、混播牧草地における二年目からの赤クロバリーの急激な減少は、単に赤クロバリーの寿命だけの問題ではなく、こうした病害による減少も大きいことを今更のよう



(f) オーチヤード、チモシーの優良系統の育成

晩生多収な雪印改良オーチヤード、チモシーは数年前から発売、各地で好評を得ておりますが更に能力の高いものを目指して優良品種の育成を続けており、約二〇系統の候補を得て目下検討を進めております。これらの中には二米以上もある伸長型、多



オーチヤードの新系統 (多葉伸長型のもの)

葉型など非常に興味あるものが多く、日本の草資源開発技術援助計画に基いて今夏米道したF・A・O企画課長ホワイト博士(同氏は本本科牧草の育種研究で著名な英国ウイリッシュ植物育種研究所出身)が、ペリー・グット!! と賞讃してくれたのもこのオーチヤードの育成系統であります。

(g) 青刈莖類の育種

最近青刈燕麦栽培の普及に伴って、これに混播する豌豆、ベッチの需要が急増しておりますが、現在当育種場では青刈用豌豆の多収品種の育成を終り、増殖に入っております。単作、燕麦混播ともに育一四九の優良系統は断然多収であるとともに、燕麦乳熟期頃に至るも落葉せず緑色で開花を続

けている様を見ては、是非来春はこの種子をと言われる方も多くありました。

また青刈大豆では雪印九号、一〇号よりも更に多収性品種を育成試験を続行しておりましたが、漸く固定をみて、これまた急速な増殖を計画しておりますが、この新系統は東北以南の地においても増収の期待が持てると思われれます。

(h) 各種牧草の混播調査

圃場

刈取用、放牧用に分けて、各種牧草の組合せを行った混播草地の調査を行っておりますが、中でも関心の的になつたものはラデノクロバーと本本科牧草の混播であります。多雨時季にも下草のムレもなく、よくラデノと競合しているものには、造成後一、二年目の草地ではペレニアル草が、三年以降の草地ではオーチヤードが有利であることを実際に見て、なるほどラデノにはペレニアルとオーチヤードを混播すべきであると肯定され、またケンタッキー三一フェスクも混播利用するときは草質がグット軟かくなること、刈取り再生の旺盛なルーサンを混播利用することによつて二、三番草の収量を増加し得ることなどでありました。



ラデノクロバーと禾本科混播調査圃場 (ペレニアル、オーチヤードがよい)

(i) 多収種栽培調査圃

適種、適品種の選定と適切な肥培管理による多収穫と、青刈類の多毛作栽培による多収穫を、各種青刈類や根葉菜類を用いて行つた調査圃では、北海道の寒冷地で乳牛一頭五反一町の飼料畑が必要だという常識を完全に覆えし、零細経営での有畜化に大きな夢を与えたやうであります。その二、三を紹介し

すと、  
(1) 同一圃場から冬に必要な乾草と根葉の生産

これは早春クリムソクローパーとイタリアンライスグラスとを混播し、七月中旬に生草で約一、〇〇〇貫を得てこれを乾草とし、跡地はかぶを八月早々に播種して十月末には二、〇〇〇貫以上のものを収穫する組合せ

(ii) デントコーン駆逐論者を喜ばした青刈燕麦とかぶの二毛作

地力収奪が激しく、しかも寒冷に不安定なデントコーンを北海道から駆逐しようとする声も起きておりますが、それ代るものとして、早春青刈燕麦にベッチ、豌豆、更に一年性禾本科牧草を反当一畝混播し、畦幅一尺として栽培したものは



(1)

古来わが国と中国は、同文同種の国と言いつらして文化の上にもまた経済の上にも密接不離の関係を続けて来たが、今日中共は自由に往復することも出来ない全く海の彼方の国になつてしまつたが、幸に今夏中国農学会の招聘によつて六月二十五日から七月末まで首港を経て南から北、北から南と約一カ月いわゆる「点と線」の旅をし、彼等のいう「開放された中国」の実際を見聞する機会を得たのでその二、三について申述べてみたい。

中国の大河

それは肥沃土壌の運搬水路

香港までは空路、香港からは鉄路、広州(広東)を経、武昌—漢口間で揚子江を渡つた。

香港(英領)から国境を越えると汽車は珠江の流域に出る。一望際涯のない天に連なる大平野だ。そしてそれが悉く水田だ。一毛作の収穫時期で二毛作に入るところである。私は先年満洲(現在は東北)というので、つくづく地球は円いということを体験した。それは視界のすべてが、目を遮る岡もなければ山もない、また森や木もなく秋であつたから作物の繁みもなく、漠々たる地平線は海岸に立つて大洋を望むに等しく、視野の尽きる所まで弧を描いている。くるつと回つて後方を見ても全く同様で、円の頂点に立つているという実感がピタリと来る。ところが今度のは真つ平な水田だ。涯知らずという歌の文句があるが、今度はこの涯の知れない広さというのを見た。

七月上旬には一、三〇〇貫くらいの青刈りができ、更にその跡地はそのままにしておきますと、一カ月後には軟かいイタリアンライの一尺くらいの放牧地となり初冬まで利用が利き、また耕鋤してかぶを栽培して二、〇〇〇貫ということになりますと、燕麦サイレーシだけでもデントコーン程度の収穫があり、跡地の放



つ大葉の様な埋まるソルゴーが  
圃場調査の多収種混播のまめ

牧またはかぶは儲けものということになり、デントコーン駆逐論者はこれに限ると喜んでおりました。

(イ) 春かぶと、ボンキンの組合せ  
早春にボンキンの播床をつくり、その間には全部かぶを播種、降霜の心配のなくなった時にボンキンを床(鞍)に播下しますと、ボンキンのつるの出る七月中頃には丁度かぶが収穫され、その収穫跡地にボンキンが徐々につるを延ばして、秋にはゴロゴロとボンキン畑に変わるという間混作は、土地を高度に利用する一方法です。しかも夏とりのかぶは丁度牧草の一、二番のツナギに役立ち、秋のボン

キンはエンシレーシ飼付け前の多汁飼料として重宝です。

(ジ) その他導入牧草や、青刈類の適応性調査

更に販売種子の次代鑑定などの圃場もなかなか賑やかなものがありますが、導入作物で特に注目をひくものには、岐阜大学で育成したスーダングラスとソルゴーの種間雑種であります。

以上で飼料作物の圃場を駆逐で一回りしたわけですが、次いで園芸の圃場へ参りましょう。

◎園芸作物育種調査圃場  
今春藤の沢農場から上野幌へ移動した園芸部門は、まだ緒についた許りで、なかなか大変なものでしたが、それでも藤の沢での育種事業を継続して一日も早く優良品種を育成しようという係員一同大張り切ります。

(a) 五寸人参の新品種育成  
輸送園芸として脚光を浴びて来た五寸人参の早太り系統育成を目指して、一〇〇余の系統について地元生産者、取扱業者の意見をも参考して数回に亘つて調査を行い、数系統を選抜、更に次年度に備えることと



園果樹母樹園に栽培されている草生

致しました。  
(b) 軟葉用豌豆の新品種育成  
早生農産を狙つての豌豆の育成も、三日絹莢程度の熟期で農産な優良系統の候補を選抜し、更に検定を重ねる準備を進めております。

(c) 茄子、トマトのF<sub>1</sub>

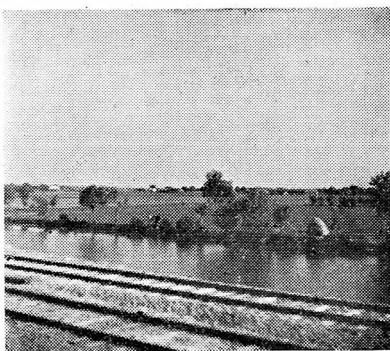
に一応の優良組合せの検索を終つて、数系統は千葉農場において採種を行つており、更に新しい組合せの検索を続けております。

(d) 甘藍の育種  
札幌甘藍の新系統を育成中

(e) その他

南瓜、胡瓜(四葉) 二十日大根(赤丸) 玉蜀黍(オノア、パソタム) 菜豆などについても、原原種の生産を兼ねて選抜淘汰を行つているのが、目下の蔬菜園芸

関係の仕事であり、更に果樹では約一町歩の母樹園に苹果、梨、ブドウを始め、各種の新品種を栽培し、秋の今は枝もたわわに黄、紫とりどりという賑かさで、来場の方々も果実の試食までして、これはよいということから苗木育成圃に足を運び、健苗を注文して行くという型の人が最近はめつき



野平東広と天に連るクーク有名

地図やなんかでみる知識の上の広さなどというものと、目で見て実際の知れない広さというものは表現のしようがない広さだ。全く想像も夢想も出来ないもので、つくづくこれはとんでもない圃だとおもつた。  
沿線では到るところにクークをみた。氾濫後の赤い泥土が生々しい。まだ水に浸つている稲もある。クークの水は静かだが河の方は濁流滔々だ。しかし単純な滔々ではない。日本の河では見られない、滔々で表現することが出来ない、黄土(土壌)を捲き返して渦を巻かんばかりの凄惨な様相を呈して行く。座談会の時、これは河ではない、肥沃土壌の運搬水路じゃないかと言

つたら、農学会の広東支部長は苦笑していた。しかし中国の大水田地帯——珠江、揚子江、黄河等々の流域は、旱天に洪水を見るといわれるように、晴天でもジワジワと増水、そして幾日も滞水、この間に泥土が沈澱、洪水は自然に肥沃土壌の客土をしてくれる。氾濫の被害も少ないものではあるまいが、こういうことがあるから幾千年の間、自給肥料の土糞(人糞尿、家畜の糞尿に土をまぜて造る)だけで金肥なしの穀作を続けることが出来たのだらう。われわれの常識は堆厩肥の有機肥料が最低反当三〇



り増えております。

一方、花卉では鉄砲百合の品種改良に重点をおき、過去数年間に亘つて実生育成したものを約三〇〇種の優良系統を造成し、目下開花期、花の大きさ、耐病性などの検定を行つております。七、八月の頃に約五万個体の鉄砲百合が咲き始めますと、まことに見事なもので、遠くから見



鉄砲百合の検定圃場

と時ならず雪でも降つたかと思われるような純白さです。

今夏は札幌市場に約一カ月に亘り、育成鉄砲百合切り花を出荷してみました。花の雄大さ、長持ちすることで非常な好評を得ました。

◎原種圃場

飼料作物の原種圃場で五反一町歩程度の原種生産を行つているものについて御案内申し上げます。

- (a) 丈余に伸びている改良オーチャード混播草地かと思われるほど下葉の多い

改良子モシ

- (c) 大人の姿がスッポリかくれてしまふ、青刈燕麦雪印一〇一号

- (d) 車の入れ場所もないくらい見事に成つた二斗樽大のボンキン(家畜南瓜)
- (e) 電柱に追いつきそうな大葉多葉性ひまわり

- (f) 蝶や蜂も酔うかと思われるような見事に咲いたアルサイククロバ

の四倍体圃場

更にスーダングラス改良種、パズットレブオイル、ブルームグラス、秋播豌豆オーストラアンウィンターピース、家畜根菜母本育成圃場なども、それぞれの時期に特色のある趣きをそえております。

特に今年の人気者は矢張りマンモスボンキンでした。その巨大性を買われて北海道博覧会の宣伝として、全国都府県、主要都市に送り込まれたり、ニュース映画、新聞写真、更にはテレビニュース、映画にまで登場するという有様で、秋の数はボンキンに対する来客でゴツタ返したこともありました。

◎自給飼料圃場

種子屋の農場で牛飼いはおかしいと言われる方もありますが、三十町歩の地力維持と、種子は種子でも飼料作物が主体であれば、改良も栽培利用の調査も牛を無視してはできません。そういう観点から十数頭の



多数種類混作の自給飼料圃

(燕麦、ベッチ、イタリアン)

めの混播探草地などがあります。

そして参観者の関心を呼んだものは青刈燕麦、ベッチ、豌豆、イタリアン混播の青刈りと、デントコーンに大葉つるまめ、青刈大豆の混播、七種類混播の探草地など、混作混播による安全確収と、釣合いのとれた栄養生産の栽培様式でありました。

ホルスタイン種を繋養しておりますが、早春からは四反歩のラデノクロバ、ペレニアルライグラス、オーチャード混播草地での輪換放牧を主とし、それに配するに、秋播ライ、レーブの青刈、燕麦、ベッチとイタリアンライ混播の青刈、春播かぶ、青刈大豆、デントコーン、スーダン、ソルゴーの青刈、また秋にはボンキンを補足的に給与してあり、これらの作物が一、二反宛常に刈取りを待つように生育しております。

一方、冬期間飼料としてはデントコーン、家畜ビート、ルタバガ、それに乾牧草のた

○貫、それに金肥だ。土糞の生産量は反当に換算して僅かに半屯(八肥年最大量五〇〇キロ、豚の糞尿二、〇〇〇キロ、耕地一ム(〇・六七二二畝)当り五〇〇キロ)ということであるから、黄土は特殊な土壤でいくらか肥料の要らない土壤だといつても、事実作物に見る地力は瘦せている。

キログラム

河南省陝県 三四・〇(九貫四〇匁)

エジプトナイル河一・〇 (二六六匁)

ソ連、アムダリア河

四・〇(一貫六四匁)

アメリカ、コロラド河

一〇・〇(二貫六六匁)

黄河中流地帯の年間土壌の流亡量

毎年一平方キロメートル(三〇町)から

流亡する土壌重量 三、七〇〇屯

(一町当三〇、八〇〇貫)

その甚しき地帯 一〇、〇〇〇屯

全世界平均 一三四屯

貧弱な水稲

水田作りは食糧生産の外に

林業と鉱業の兼営だ

車窓から見る水稲の出来栄は、草丈は

相当なものだ、日本よりも良い、しかし分

けつが少ないので地肌が見える。穂先の粒数

は驚いたことにチヨボチヨボとわが国の

三分の一かそこいらだ、半分は無い。中国

第一という米の本場の広東で一体これはど

うしたことだ? というのがわれわれ一行

の話題であつた。しかし統計にみる米の収

量は一ム当り(〇・六七二二畝)一二五—

一八〇キロというから、一反歩当りに換算す

ると四斗俵三—四俵ということになるが、

これは粗のままの重量であるから玄米にしたらまだまだ少なくなる。もつともこれは

全国平均で、広東省の福建では一ム概で五

### 三 来場者もひつきりなし

酪農経営の進展につれて、草に関心を持たれる来場者も逐年増加の傾向にあります



筆者の説明で圃場を見学するホワイト氏

が、今夏は特に増加し、目下参観者日誌で集計しておりますが、万に近い数字が出るのではないかと思われまます。従つて来場者も色とりどりというところで、特に記憶に強く残つているものを拾い上げてみます

特に耐旱耐病性の優れた

## 暖地向 青刈飼料作物ベストファイブ

安孫子 六郎

パールミレット (唐人稗)

アフリカ原産の「パールミレット」は、日本においても北は北海道より南九州に至

と、外人ではアメリカのミルクの女王、また牧草研究家で名高い米人ヤングマン博士、前記の英人ホワイト氏、更にオランダ、スエーデンの種苗会社の技師連など

その範囲も米國、ニュージールランド、英國、北歐など酪農先進の各國から見えており、国内では特に目立つたのが東北の岩手、青森県で七月、八月には同じ日に同一県から数団体が来るという盛況で、特に町村自治体(役場、議会議員)の方の多いのが従来と変つた傾向でありました。また研究団体としては北日本酪農研の一〇周年大会の一行や、全酪北海道視察団、また府県の普及技術員の養成所である各県農業講習所の生徒は、遠く鹿児島県を初めとして大半の府県が、また最近北海道旅行を兼ねた府県農業高校の夏季実習が盛んになつておりますが、これから実習生の訪れるものも随分多くなりま

る栽培地域の広い作物で、多収であり強健で特に病害に対する抵抗力は他の作物に断然抜き出ている。最近スタンディングラスのある種について、病害の被害が甚しいもの

誌友諸君の農場実習希望者も多く、埼玉県の高橋敬二君、八丈島の伊崎崎君、高根県の横山節郎君などは特に遠方から来られた方々で、いずれも十日内外の実習で北海道での酪農経営の概要、乳牛飼育、飼料生産などを体得されて帰つたわけですが、帰郷後の感想はいずれも草を豊富に準備しなければ、本当の酪農はできないと漏らしてきております。更に全く畑違いの来客としては、サイロの中にはどんなものが埋めてあるか、ミルクとはどんなものか、という類いの社会見学団も多く、カメクラップの団体などなかなか思うようなポーズをとつてくれない乳牛に、四〇五時間ねばつていゝ風景もいかにも農場らしい雰囲気です。D映画会社がコーンとポンキンの撮影をやりたいから収穫を暫く待つてほしいなど、ともかく雪の降るまでは賑やかなことです。そして雪の冬は調査成績の取纏めや種子の準備、各地の講習会へ出歩くことになりまます、そのうちにすぐまた春がやつて来ることでしょう。

(雪印種苗・上野幌育種場)

があるが、パールミレットはほとんど被害を免がれている。しかも耐旱性強く、前二カ年の大旱魃に際してもよく伸長して反刈二回刈りで一、五〇〇〜二、〇〇〇貫に達し、青刈用あるいはサイレージ用として極めて有利である。

高温早魃時に欠くことのできない青刈作物の一つである。普通二回刈りであるが、暖地では三回刈りも可能である。播種適期は四月下旬より六月下旬に至るが七月中旬まで可能である。播種期の晩い

〇〇キロと称せられるが(反当七五〇キロ)どうも目で見た立毛は貧弱なものだつた。ちょうど収穫時で、すでに収穫を了り二毛作の代掻きをしているところがあり、手廻しよく挿苗を了つたものもある。それなのに一カ月後に帰つて来ても往つた時同様に小さな穂をつけて立つているもの、収穫最中のもの、水牛でポチャポチャ代掻きをやっていゝもの、活着して大分伸びているものと様々で、往つたときの様子その儘で、中国というものの鷹揚さには驚くの外はない。

広州農業会の主脳部は、水田の生産増進のため日本の當農技術に深甚なる関心を示していた。生産性の向上という流行語で表現すれば、土地の生産性を向上するためには地力の増進と品種の改良、施肥の問題等があるうし、労働の生産性を考えれば先ず第一に機械化ということになるであらう。そこで私は思うのだが、あの水田作りは食糧の生産だけではないんでないか、何となれば僅かの米をとるのに大きな茎と葉を育てている。土地の生産性からいつても、労働の生産性からいつてもこんな不合理を続けるという手はないだろう。しかし水田地帯では藁の半分は水牛の飼料、残りの半分は大切な燃料ということであるから、些か詭弁を弄する嫌はあるが、燃料をとる山もなければ東北地方(満州)のような草原もないこの地方では、藁が唯一の燃料であるから、米の収量も大切だが藁もなるべく高く丈高く育てているんじゃないか、なげなしの地力で僅かの米を穂先に捻らせただけでは、生産性についてみれば幼稚なものとおもわれたが、この辺の農業は食糧生産の外に薪や石炭の生産も同時に水の中でやることになつていゝのかとつくづく所変れば品変るといゝ言葉が思い出された。(つづく)

(雪印種苗・取締役社長)



品名	第一回刈 (七月六日)		第二回刈 (八月三日)		第三回刈 (九月四日)		合計	反当
	量	質	量	質	量	質		
普通種	七〇	其	二五〇	其	九六〇	其	一〇〇〇	二〇%
パイパー種	六〇	其	四〇	其	一八〇	其	二〇〇	二〇%
テイフト種	四〇	其	七五	其	一五〇	其	二〇〇	二〇%

ときは二回刈りで終るが、晩秋に至つても常に青く真に作り易い青刈飼料である。

### スーダングラス「耐病性品種」を作れ

スーダンの普及は最近急激に伸びているが、普通種に葉枯病が多いことが問題になっている。弊社はこの耐病性品種を撰択する試験を続けて来たが、三方年の成績を取

### 多葉性ひまわり

ひまわりは霜によく耐ゆるから玉蜀黍に先立ちて播種できるので、青刈麦類と玉蜀黍の収穫までの端境期に頗る有効である。



スーダングラス

纏めた結果、左記の品種が病害に断然強いことを確信をもつてお奨めできる。四割し六割以上の増収となりしかも病害に犯されないの

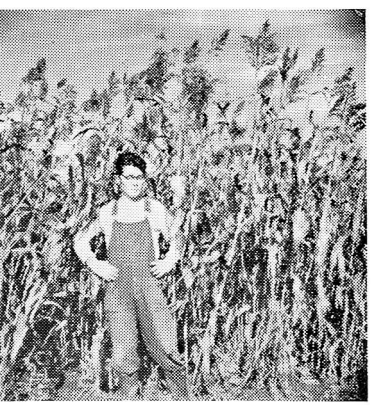
また、玉蜀黍の欠株を補う場合、生長が早いので非常に便利であり、その他短期間耕種を利用する場合、特に水稲の早期栽培後秋播の飼料作物を作る間隙を縫つて播種できるなど「ひまわり」の利用性は広い。栄養分も相当であり収量も多いので、最近



パールミレット



ひまわり



ソルゴー



カウピー

非常に普及されて来ている。

ひまわりの実例 (千葉農場)  
播種期三月二十二日  
刈取期五月二十四日 生育日数六十三日  
収量六六〇貫 草丈四尺二寸

### カウピー播種期成績

播種期	反当収量	生育日数
八、七、七、七、六、六、五、五、月	二、一、九、八、七、七、七、七、日	八、六、六、五、五、四、三、二、日
八、七、七、七、六、六、五、五、月	二、一、九、八、七、七、七、七、日	八、六、六、五、五、四、三、二、日

### ソルゴー

多収耐病性のソルゴーは、夏の青刈作物として大方の注目を引くようになった。

耐旱性強く草丈十数尺以上に達し、反収四千貫(二回刈り)は珍しくない。前二カ年の早刈に素晴らしい偉力を發揮し、益々広く栽培をみるに至るであろう。

関東地方では五月上旬(六月)上中旬に青刈りとし、二回刈りは十分生長せしめ、十月上旬に甘藷つると共にサイレイシに切り込むと、素晴らしいサイレイシができる。糖分の含有量が多いので、甘藷つるのサイレイシの風味と品質を向上せしめて妙である。病害に強く生長も早く、また夏期の高温早刈に強いことは、夏作の条件を備えているというべきで将来有望な夏作の一穂である。

### カウピー (飼料用さげ)

カウピーは暖地、特に夏期早刈地帯に絶望有望な飼料緑肥作物であることが、前二カ年の大早刈に実証された。カウピーの原産地は中央アフリカといわれるが、春の播種期は急ぐ必要なくむしろ五月下旬乃至六

月上旬くらいが成績がよい。冬作の燕麦、ライ麦などの跡地に利用するのに好都合である。また継続性であるので玉蜀黍の混播に利用される。

夏期高温早刈のときも発芽がよく揃い、しかも多湿な場合でも地に着いた部分が腐る心配もなく、極めて強健によく繁茂する。

特記すべきは、青刈大豆類のごとく黄金虫の喰害の全くないことである。

家畜の食味も相当なものである。特に盛夏より晩夏にまめ科作物の乏しいとき「玉蜀黍」、「スーダン」、「パールミレット」、「ソルゴー」など、比較的蛋白含有量の少ない作物と組合せて給与できることは、飼料経済上極めて有利である。

晩播きの限度は、関東地方では七月中下旬であろう。

玉蜀黍と混播(六月七日)し八月二日(刈取期)に収穫したものは、よく玉蜀黍に纏繞して反当一二六〇貫あり、(生育日数)五

カウピー (雪印種苗・千葉農場)

日不  
時栽培  
的に甚  
だ興味  
ある作  
物であ  
る。